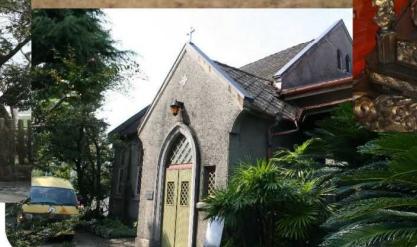
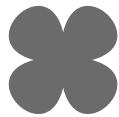


～小城どこでんミュージアム～
屋根のない博物館構想



平成19年3月

小城市
小城市教育委員会



はじめに

平成 17 年 3 月 1 日に旧小城郡 4 町小城町・三日月町・牛津町・芦刈町が合併して小城市が誕生しました。小城市は豊かな自然と古くからの歴史・文化に彩られ「九州の小京都」と呼ばれています。市内には数多くの文化財が所在し、歴史・文化に対する市民の関心も高い土地です。また、県内外から多くの観光客も訪れています。

今回の「～小城どこでんミュージアム～ 屋根のない博物館構想」は市立歴史資料館や中林梧竹記念館を中心として、市全域を博物館のステージに見立て、市内各所の有形・無形の文化財を博物館の展示資料と位置付けています。実際にこれらの文化財を訪ね、見て、ふれることにより小城市的歴史や文化を学ぶことができます。そして、これまで 4 町でそれぞれ進めてきた文化財保護・活用について一体的な保護・活用を図り、小城市独自の自然・歴史・文化を活かした特色あるまちづくりを目的としています。

平成 19 年 3 月

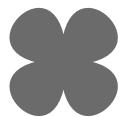
小城市長

江里口秀次



例言

1. この報告書は「～小城どこでんミュージアム～ 屋根のない博物館構想」の策定の成果をまとめたものである。
2. 小城市は、「～小城どこでんミュージアム～ 屋根のない博物館構想」の策定を平成18年8月より平成19年3月で実施した。
3. 小城市は、(株)埋蔵文化財サポートシステムに構想の素案作成、調査・分析、報告書のとりまとめを委託した。



目次



「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館」という考え方

1

1. 構想の位置づけ	1
2. 構想策定の目的	1
3. 構想の名称	2
4. 構想の考え方と展開方向	2



小城市の歴史的背景と文化財

3

1. 小城市の歴史的背景～小城物語～	3
2. 小城市的文化財	5



これからの文化財保護のあり方

7

1. フィールドミュージアムについて	7
図3-1 フィールドミュージアム概念図	7
2. フィールドミュージアムの役割	8
図3-2 役割の比較	8
3. 文化財の活用方法	9
4. 積極的な活用のための整備	9
図3-3 リニア型動線	10
図3-4 プラザ型動線	10



歴史・文化を活用したまちづくりの展開

11

1. 文化財を活用したまちづくりの提案	11
図4-1 小城市域ゾーニング図	14
図4-2 ゾーニング①やまなみ展示館	18
図4-3 ゾーニング②仏の里展示館	22
図4-4 ゾーニング③小京都のまちなみ展示館	25
図4-5 ゾーニング④弥生の風展示館	28
図4-6 ゾーニング⑤長崎街道と宿場町展示館	30
図4-7 ゾーニング⑥石工の里展示館	32
図4-8 ゾーニング⑦開拓と干拓展示館	34



文化財の保存と活用

35

1. 文化財の保存と今後の管理	35
2. 文化財の活用	36
3. 産業振興と観光の連携	37
4. 「小城ふるさと学」の提唱	38
5. 物語の道の設定	38
6. 情報提供について	42



達成スケジュール

49

1. 実行推進	49
2. 実現化の検討	50
3. 今後の対応	51



参考資料

53

1. 小城市の遺跡、寺社、指定文化財等一覧表	54
2. 小城市的無形文化財	84
3. 小城市内の百選と小京都	87
4. データベースとインターネットの活用	90



「～小城どこでんミュージアム～ 屋根のない博物館」という考え方

1. 構想の位置づけ

小城市総合計画の基本計画の中で、小城市が目指す将来像や基本目標を実現するため、各施策を横断的に捉えたものが戦略プロジェクトとして設定されている。本構想は、その1つである「宝ぴかぴか輝きプロジェクト」に基づくものである。

小城市特有の自然や文化財などを小城の「お宝」と位置づけ、このお宝を守り伝え活用する事により、市民が郷土に自信と誇りを持ち、文化的で質の高いまちづくりを積極的に目指す。

2. 構想策定の目的

平成17年3月1日に小城町・三日月町・牛津町・芦刈町の4町は合併し、新しく小城市が誕生した。合併により小城市的範囲は、北は天山から南は有明海までと広大なものとなった。その広大な市域には、多種多様な歴史や文化、蓄積されてきた人的・物的な資源、文化財が存在する。その中には国・県・市等の指定を受けた文化財も多い。しかしこれらの文化財は余り市民に知られておらず、また老朽化が進んでいるものも多い。そのために早急な調査、修復、整備が必要なものがあり、いわばまだ宝物の“原石”といった状況である。市民がこれらの原石の価値を見いだし、磨き上げることが重要である。

小城市をさらに魅力あるまちとするためには、小城市的掲げる『「薰風新都」みんなでつくる・笑顔あふれる小城市』・『「和」で織りなす美しいまち』というスローガンをもとに、市民がそれぞれ受け継いできた文化財を後世に伝えるとともに、これらの文化財を活用した個性あるまちづくり「薰風新都」、「和」を推進する必要がある。

本構想では、フィールドミュージアムという新しい概念を基本として、小城市的文化活動が地域と一体となって一層活性化するとともに、貴重な文化財の保存とまちづくりへの活用に発展することを目的とする。



3. 構想の名称

本構想は市内全体どこでもを博物館と見立て文化財を保存活用することから、「どこでも」という意味を表す方言である「どこでん」、「博物館」を親しみ易い言葉で表現するため「ミュージアム」を用いて、「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」とする。

また略称を「どこミュー」とする。これは方言では「どこを見ようか」と意味になる。小城市内の文化財を利用し易くし、その情報を示すことで、訪れる人々に多くの選択肢を示すことのできるような、そんなまちづくりを目指す。

4. 構想の考え方と展開方向

「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」とは小城市に存在する貴重な文化財を保存・継承し、活用することで市民生活の質の向上を目指すものである。本構想は小城市に関わる人々みんなが参加してまちづくりを進めていくことを目標とする。小城市的まちづくりにどのようにして文化財を活かしていくかについて、みんなで考えることが行政と市民との協働につながる。

行政と市民とが協働し一体となった活動をおこなうことで、小城市に関わる人々の郷土への関心が増し、愛情と誇りを持つことのできるようなまちづくりを目指す。またそのことが小城を訪れる人々にも小城市的素晴らしいを伝え、感じてもらうことのできるまちづくりにつながる。



小城市的歴史的背景と文化財

1. 小城市的歴史的背景～小城物語～

小城市は旧小城郡の小城町、三日月町、牛津町、芦刈町が合併した新しい市である。小城市は北に天山、南に有明海を臨む。天山より流れ出た豊かな水が小城の平野を潤し、豊かな自然と文化を育んできた。

小城物語のはじまり

この豊かな自然に育まれた小城の地に初めて人類の足跡が認められるのは、旧石器時代の約2万年前から4万年前である。岡本、老松山など山裾に人類が生活を始め、縄文、弥生時代と人々は山裾から平野へと降りて、土生、久蘇、生立ヶ里などで弥生文化を開かせた。それは小城が豊な土地であった証でもある。特に土生遺跡群は朝鮮半島との交流を示す考古資料が出土しており、弥生文化の成立を知る上でも貴重な遺跡である。

小城の地名の由来

弥生時代以降、平野部の農耕は多くの人々の暮らしを支え、政治・文化の発達に貢献した。そして有力者のもとで小城のクニの原形ができる。これらのクニは大和を中心とした勢力に組み込まれ、山裾から丘陵に古墳が作られた。古墳時代である。小城町の茶筅塚古墳、三日月町の姫塚、円山古墳、権現山古墳は小城のクニの豪族の墓と考えられる。また大和を中心とした勢力に抵抗したこの地の人々が立て篭もった堡（おき）が、「小城」となったと奈良時代に編さんされた『肥前国風土記』は伝える。律令期、小城に郡が置かれ、条里制のもと土地はさらに開発され多くの人々が暮らした。この条里の地割は近年まで痕跡をとどめており、圃場整備後も里や坪など条里制にかかる地名が多く残る稀な地域である。またこの地にも仏教が伝わり、8世紀には寺浦廃寺が造られ、9世紀には国家鎮護のための寺院が天山山麓に作られた。平安時代には牛尾山に別当坊が開かれ一大宗教センターの觀があった。この時期のものとして牛津町常福寺の木造薬師如来坐像、木造帝釈天立像が知られ、国の重要文化財となっている。そのほかにも平安時代の木像が数多く発見されている。

千葉氏の時代

中世に入ると武士の時代となり、鎌倉幕府より恩賞地として小城の地を得た千葉氏が下総国（現千葉県）より下向し、千葉城を拠点として勢力を広げ、戦国期には肥前国主とまで言われた。この千葉氏により鎌倉、京都の文化が移入され、寺社関係では京都八坂神社を勧請した祇園社（現須賀神社）、鎌倉鶴岡八幡宮を勧請した内砥川八幡社がある。特に祇園社の山曳祇園はこの時代に千葉氏が始めたものである。文化財として円通寺や三岳寺には鎌倉時代の仏像と古文書などが伝わっている。



小城鍋島氏の時代

戦国期の動乱を経て、江戸時代小城の地は、小城鍋島藩七万三千石の領地となり、現在の小城公園、小城高校一帯に藩邸があった。周辺には小路と呼ばれる武家屋敷がつくられ、まちが発展していった。小城町の星巖寺、三日月町玉毫寺は黄檗宗寺院で小城鍋島藩主の菩提寺である。牛津町は長崎街道の宿場町、有明海の港町として栄え、交通の要衝として人と物の集積地であり、『西の浪速』と言われるほどにぎわった。

牛津町出身で玉屋デパートの創始者田中丸家の邸宅と倉庫は現在に残り、邸宅は牛津町会館、倉庫は牛津赤れんが館として牛津の栄華を今に伝えている。また、牛津町内砥川の谷には江戸時代の石工集団が存在し、この地だけでなく各地に優れた作品を残している。

芦刈町は中世から江戸期にかけて、急速に有明海に向かって干拓が進み、耕地面積が増大した。江戸時代初期干拓堤防跡である『松土居』が現在も残っている。

近代から現代

明治後は版籍奉還、廢藩置県、郡県制への移行、佐賀の役などがあり、日本が近代国家へと変貌していく上で混乱もあったが、小城も近代的な制度へ移行していった。

この間、製紙業、製粉業が活発に行われ、近代的な製紙・製糸工場の建設も行われた。また明治初期、小城の羊羹の製造も始まり、日清・日露両戦役を通じて軍の甘味品として太平洋戦争終結まで納入され、大いに発展して今日の小城の特産品となった。

この時期、明治の三筆と称された小城出身の中林梧竹が活躍し、故郷に観音堂を建立し、各地に筆跡を残した。そのほかに経済学者の高田保馬、政治家松田正久、波多野敬直など多くの人材を輩出した。

戦後は占領軍による農地解放などの激動を経て、米、大豆などの一大産地となり、蜜柑園の造成、圃場整備など農地整備が進んだ反面、多くの文化財、条里制跡、歴史的地形の多くが失われた。しかし尚現在でも、歴史的地名、古跡、伝統文化、芸能が多く伝えられ、現在の生活の中にも生き続けている。

小城市誕生までの変遷

小城は明治 13 年（1880）郡区町村編成法により戸長役場が置かれ、明治 22 年（1889）町村制施行により戸長役場の管轄区域をほぼ受け継いで、小城町、牛津村（明治 27 年牛津町と改称）岩松村、晴田村、三里村、三日月村、砥川村、芦刈村が置かれた。

昭和 7 年（1932）小城町、岩松村、晴田村、三里村が合併して小城町となり、昭和 31 年（1956）牛津町、砥川村が合併して牛津町となった。昭和 42 年（1967）芦刈村は町制施行により芦刈町へ、三日月村は昭和 44 年（1969）町制施行により三日月町となつた。そして、平成 17 年（2005）3 月 1 日小城郡 4 町の合併により小城市が誕生した。

2. 小城市的文化財

(1) 小城町の文化財

小城町は市内北西部の山間部から裾野に位置する。ここには県史跡の指定を受けた茶筅塚古墳をはじめ、市史跡の一本松古墳群、姫御前古墳、丹坂峠古墳などの古墳が残る。

また宗教施設、特に寺社仏閣が多く残り修驗道の痕跡も認められる。その一つ、県史跡である寺浦廃寺は奈良時代から平安時代にかけて存在した古代寺院である。その他、平安期の創建と伝わる寺社は天山神社（天山神社上宮、晴氣天山社、岩藏天山神社）、牛尾神社（牛尾別当坊）岩藏寺、鏡神社、見瀧寺などがある。

また千葉氏・小城鍋島氏ゆかりの文化財も多数残る。町の東側の高台に位置する千葉跡は千葉氏が関東より入り築城したとされる。他に千葉氏関連のものとしては、妙見社、須賀神社、円通寺などが挙げられる。星巖寺は小城藩主鍋島氏の菩提寺であり代々の墓所が残る。他に小城鍋島氏関連のものとして三岳寺、岡山神社等がある。

小柳酒造、天山酒造、深川家住宅、村岡総本舗本店・羊羹資料館は国登録有形文化財と22世紀に残す佐賀県遺産に選ばれ、他にも西小路、鯖岡小路の武家屋敷群、大手町屋群などが小城の城下町の風情を伝える。

自然も豊かである。北には靈峰天山がそびえ、そこから湧き出した水が清水の滝などの滝になる。春には牛尾梅林の梅、小城公園などの桜の花たちが咲き誇り、夏になると祇園川に蛻が乱舞する。秋には江里山に彼岸花が咲き、山が紅葉し始めるとやがて冬を迎える。

民俗芸能として天山神社に春の御田、秋の浮立が伝わり、夏には須賀神社で祇園祭がおこなわれる。

(2) 三日月町の文化財

三日月町は市内北東部から東部に位置し、古くから人々が生活を営んできた。それは旧石器時代の遺跡である老松山遺跡、岡本遺跡が存在する事から確認できる。

また古くから農耕の発達した町でもあり、弥生時代の農耕集落遺跡である土生遺跡は国指定史跡の指定を受けている。また周辺にも数多くの農耕集落遺跡が確認されている。三日月町は条里制の跡も地名とともに町内各所に残っており、貴重な地域もある。

古墳も数多く存在し、中でも円山古墳、権現山前方後円墳及び二号墳、姫塚は県史跡の指定を受けている。

三日月町は書聖中林梧竹にゆかりのある場所も数多くあり、その書も残っている。代表的なものとして梧竹観音堂や勝妙寺、長栄寺などが挙げられる。

県内では数少なくなった木造駅舎の小城駅も三日月町内にある。また市指定の天然記念物である楠や銀木犀は全て三日月町内にあり、その雄大さからは長い歴史の重みが感じられる。

祭の季節になると甲柳原天満宮では面浮立、織島神社では龍王浮立など奉納され、女相撲甚句が淀姫神社などでおこなわれている。

(3) 牛津町の文化財

牛津町は市内の中央に位置する。かつては長崎街道の要所として栄えた町であり、宿場町の面影を残す。また肥前石工を多く輩出した砥川地区を中心に町内各所に石造物が多数残されている。

かつて現在の牛津駅周辺は長崎街道の宿場町であり、また舟は牛津川をさかのぼってきていた。その結果この周辺は商業の町として栄え、上使屋、継場、高札場などが置かれた。またこの地は玉屋デパート発祥の地でもあり、その倉庫及び創始者の邸宅は牛津赤れんが館、牛津町会館として国登録有形文化財と22世紀に残す佐賀県遺産に選ばれている。また現在、長崎街道は砂糖が運ばれた道「シュガーロード」として周辺の菓子文化とともに注目されている。

江戸期には、砥川地区を中心とした地域に石工集団が居り、肥前石工と呼ばれていた。彼らは町内外に多数の優れた石造物を多数残している。この集団が石を切り出した跡が現在石切場跡として整備されている。また石工たちが残した石造物の中には文化財の指定を受けているものも少なくない。例えば、寶積寺の六地蔵塔、空山觀音三十三体石仏像、常福寺の石仏、永福寺の石仏、生立ヶ里八幡社の肥前鳥居は市の重要文化財に指定されている。

町内の内砥川八幡神社、練ヶ里天満神社、谷集落、柿樋瀬地区には浮立が残っており、祭の季節になると奉納されている。

(4) 芦刈町の文化財

芦刈町は市内の南部に位置して、有明海に面し、古代は海であったところである。人々は干拓をおこない土地を増やししてきた。その名残が今も地名として残っている。古代には海中であったためほとんどの文化財が中世以降のものである。

芦刈町域で一番古いとされる社は芦溝地区にある大天満神社である。ここには肥前鳥居と四脚門があり、どちらも市重要文化財の指定を受けている。

また干拓の様子を現在に伝える土木資料として松土居が町の南側を東西に横切る。これは寛永年間に築造されたとされる堤防の跡である。かつては松の巨木がそびえていたのでこの名がつけられた。

芦刈町の南端で海岸の一部は世界唯一のムツゴロウ・シオマネキ保護区であり、付近一帯が海遊ふれあいパークとして、干潟体験場、水産振興センター等の施設を備えている。また秋になるとシチメンソウが赤く染まる。

また民俗芸能として乙宮神社の御田舞、おくんちの面浮立、新地節（地踊り）などが今に伝えられる。他に、干ばつの際に人身御供となった「おしま」の靈を慰め、五穀豊穰を祈る祭である「島みやー」では、有明海に浮かぶ沖ノ島の祠に参拝し、太鼓浮立が夜通し奉納される。

1. フィールドミュージアムについて

貴重な文化財がただ存在するだけでは非常にもったいない。活用することで文化財はその価値が認められるのではないかだろうか。また、地域の人々に文化財と認識してもらい、重要性を理解してもらうことで、文化財の保護と保存がより確実になる。そして、その文化財を適切に保存した上でなければ活用によって文化財を損ねる事になりかねない。

市内に存在する貴重な文化財を効果的に保存活用するには、フィールドミュージアムという新しい概念にもとづいた文化財の保存活用を提案する。

「フィールドミュージアム」とは直訳すると「野外博物館」となる。従来の屋内で展示をおこなう博物館や美術館とは異なり、市全域を博物館にみたてることで、文化財と人と地場産業や自然環境と絡めての活用をはかる。

フィールドミュージアムでは関連性のある文化財や特色の似通った文化財などをまとめ、複数のシンボルゾーン（史跡空間）を地域にいくつも作成する。それをシンボルゾーン同士、または文化施設等のバッファゾーン（緩衝空間）と連結させることで地域の文化財の保存・活用をはかる。

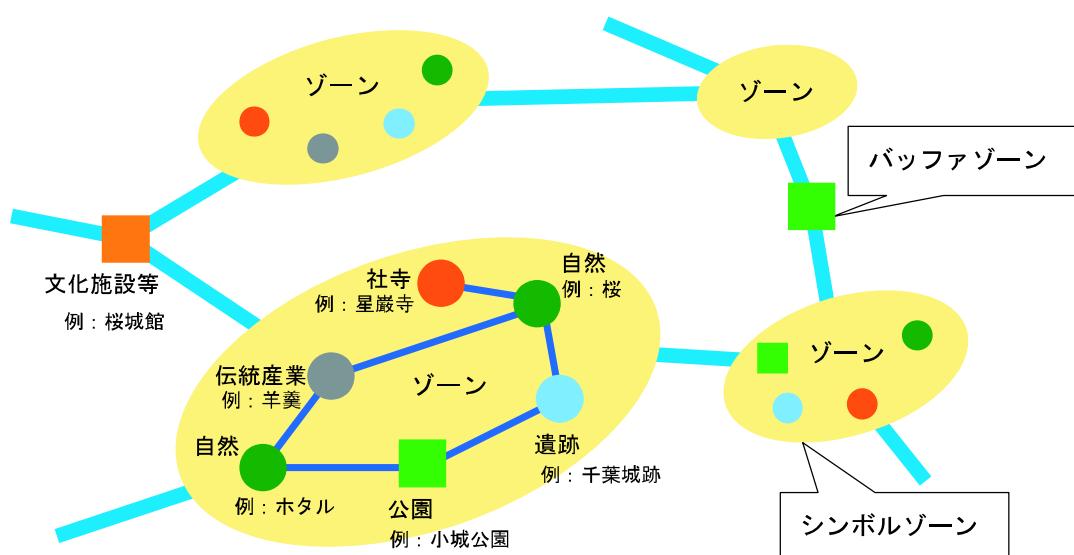


図3-1 フィールドミュージアム概念図

2. フィールドミュージアムの役割

一般的に、博物館や歴史資料館の役割としては①「収集・保存」、②「調査・研究」、③「展示・教育」の3点が挙げらる。この3点をフィールドミュージアムに当てはめて考えると次のようになる。(図3-2)

①「収集・保存」

博物館においてはその博物館のテーマに沿った考古・歴史・民俗資料などを収集し適切な方法で保管することであるが、フィールドミュージアムにおいてはその地区に存在する文化財などの調査をおこない位置や現状を把握した上で、文化財の価値が失われないように適切に保存することである。

②「調査・研究」

博物館においては収蔵品や周辺地域の文化財などに関する研究をおこなうことであり、フィールドミュージアムにおいては地域に存在する文化財を学校や地域における学習などに活用するために基礎研究をおこなうことである。またその場合、遺物や遺構と環境との関係を研究することも重要である。

③「展示・教育」

教育普及活動であるが、博物館では収蔵品を必要に応じて展示公開することであり、フィールドミュージアムにおいては文化財の整備や活用をおこない、学校や地域における学習や観光等へと利用することである。

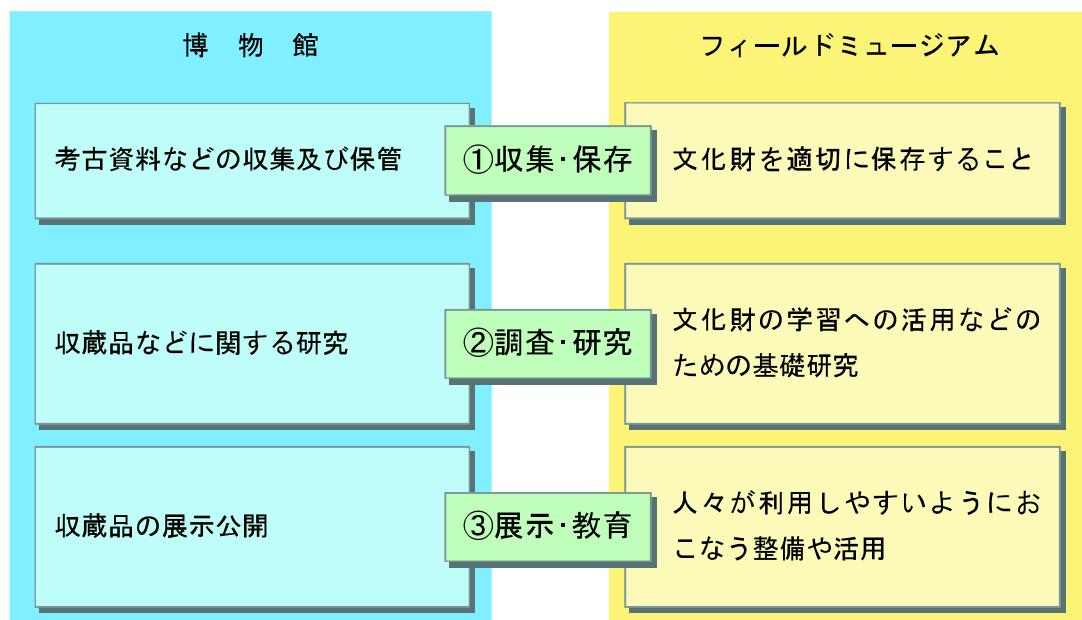


図3-2 役割の比較

3. 文化財の活用方法

文化財を地域の人々に知って貰うのが教育・学習、地域外の人々に知って貰うのが観光であろう。

文化財を「学校教育・生涯学習」に活用する方法としては、学校や地域でおこなわれている授業、行事に生きた教材として文化財を活用しながら郷土の歴史について学ぶことなどが考えられる。また、地域の文化財の管理を実際におこなうことで地域の文化財を身近に感じ、愛着を持つ事が期待できる。

「観光」として活用する場合には、文化財を地域の観光資源と関連付け、地域外へのPR活動を積極的におこなうことで活用しやすくなることが可能である。

4. 積極的な活用のための整備

文化財を積極的に活用するためにはハード面、ソフト面両方の整備が必要である。

(1) ハード面

それぞれの文化財の価値を見いだし、修復の必要なものがあれば整備をおこなうことが「宝ぴかぴかプロジェクト」であり、また見所などの説明をおこなうためのガイダンス、案内板の設置をおこなう。その際、案内板は文化財の年代や種類別などに色分け等の変化をつけ、文化財の区別をおこない利用しやすいサインとする。

(2) ソフト面

まず文化財や自然環境など特徴ごとにのテーマを設定し、「ゾーン、ミニゾーンの設定」をおこなう。

それに伴ってそれぞれの文化財について調査をおこない、各文化財に相応しい管理方法や活用について十分に検討をおこなう。

その上でゾーン、ミニゾーンを文化財の教育の場としての活用の幅を広げるために、体験を通して学習できるような「体験学習プログラム」を設定する。これにより文化財の認知度や活用頻度の向上にもつながると考えられる。他には、地域にゆかりのある人物や特徴のある文化財などについて深い理解を得るためのストーリー性のある「コースの設定」をおこない、マップやサインを設置するなどの利用しやすい環境を整える。

また、文化財を活用する際の人材を確保するには「人材バンク」が考えられる。地域住民で文化財に関する知識や伝統的な技術を持った方を人材バンクに登録し、学外講師などとして学校教育や生涯学習への協力をしてもらうと同時に体験学習等にも協力いただく。他にも文化財を利用してイベントを開いている地元の「N P Oとの協力」をおこない、文化財を利用したイベントの企画・運営などをおこなう。

どんなに優れた活用をしていても、それが人々に認識されていなければ利用してもらえない。そこで、文化財に関する「情報発信」を恒常的におこない、各方面への営業的な活動も必要である。

(3) 動線の設定

地域に点在する文化財などの整備や活用について考えた場合、ストーリー毎にゾーン分けをおこない、それぞれのゾーンや文化財をつなぐ動線を設定するという方法があるが、その動線にはリニア型動線とプラザ型動線の2つのものがある。リニア型動線とは順路どおりに回るような順番の決められている動線（図3-3）であり、プラザ型動線とは中心から目的の場所へ直接行くことの出来る動線（図3-4）である。動線を設定する場合にはその2つをうまく組み合わせる事により効果的に利用しやすいフィールドミュージアムとする事ができる。

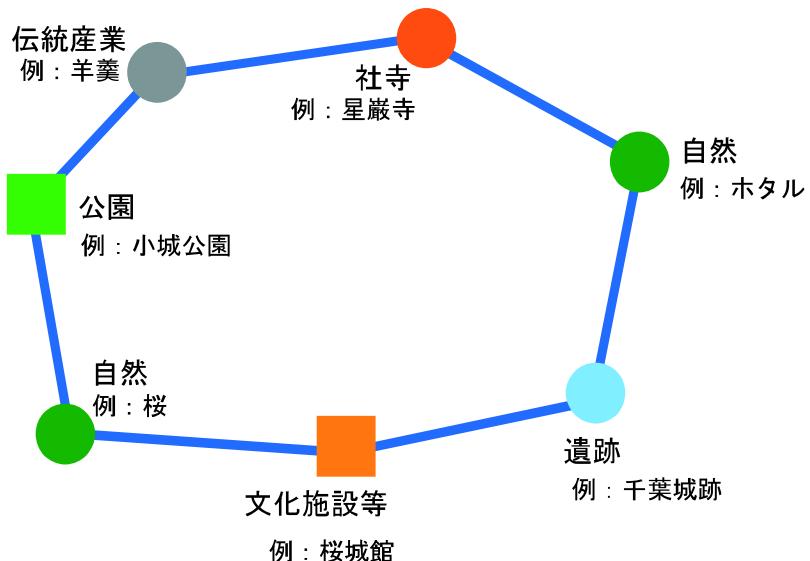


図3-3 リニア型動線

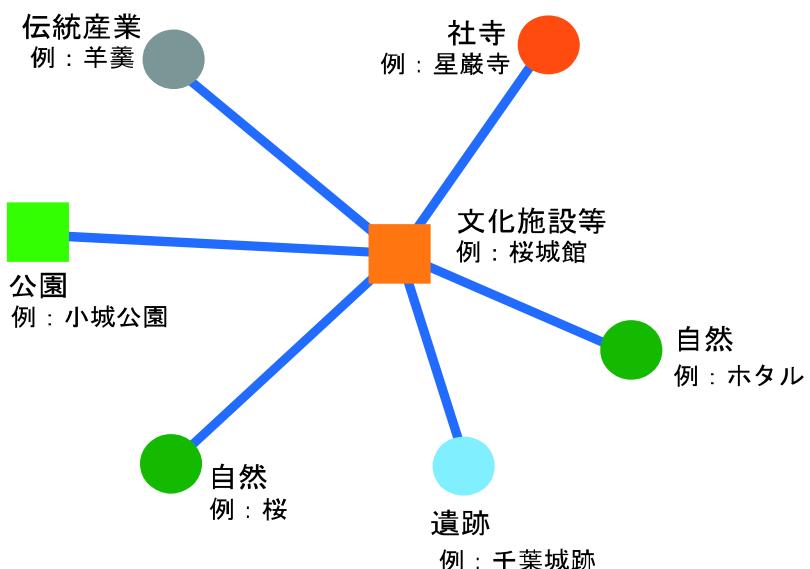


図3-4 プラザ型動線

1. 文化財を活用したまちづくりの提案

指定文化財の適切な保護、その他の文化財の調査及び指定、整備を進めるとともに、観光との連携という視点に立ち、市内全域を屋根のない博物館として位置づけ、散策コースや説明板の整備など文化財として一体化した整備・活用を図る「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」を推進する。

浮立やにわかなどの無形文化財や伝統芸能についても、講座の開催や保存団体の育成等を通じて積極的にその保存・伝承に努める。

また、歴史資料館及び中林梧竹記念館の整備充実・機能強化を図り、市内外の多くの人々が小城市の歴史・文化にふれあえる環境づくりに努める。

(1) ゾーニング

小城市内の文化財についてより深い知識を得ることのできる活用のために、市内の文化財を中心にゾーンを作成する作業であるゾーニングをおこなう。市内の文化財や地域の自然環境などのまとまり毎にゾーニングをおこない、それにちなんだ名称をつける。ここでゾーニングしたものは活用の際に利用する。

1) 小城市的ゾーニング

今回の構想では全体の拠点として歴史資料館・中林梧竹記念館や図書館などの複合施設である桜城館を設定する。そしてゾーンごとにも地区拠点を設定する。

小城市全体を地域や文化財の特色に応じて以下の7つのゾーンに分けた。それぞれのゾーンの名称は、小城市全体を博物館と見立てたことにより「～展示館」とする。

①やまなみ展示館

天山、江里山の棚田、清水の滝、この異なる景観を持つ3箇所のやまなみを感じるゾーン。山に暮らす人々がどのような文化を築いてきたかを学ぶ。
ゾーンのテーマカラーは青竹色 

②仏の里展示館

長期にわたる時代の宗教施設、特に寺院を中心としたゾーン。様々な時代、素材、形態の仏像が数多く残されている。
ゾーンのテーマカラーは紅梅色 

③小京都のまちなみ展示館

千葉城跡から小城駅にかけてのまちなみを中心としたゾーン。千葉氏や小城鍋島氏などの城下町としてまちなみがどのように発展を遂げてきたを知る。
ゾーンのテーマカラーは赤紅 

④弥生の風展示館

土生遺跡などの弥生時代の集落遺跡を中心としたゾーン。弥生時代から今に伝わり、日本一にも輝いた稻作を、地名などに今も残る条里制によっても感じられる。
ゾーンのテーマカラーは山吹色 

⑤長崎街道と宿場町展示館

長崎街道とその宿場町である牛津を中心としたゾーン。古くから商業の盛んな町として栄えてきた歴史を知る。
ゾーンのテーマカラーは菖蒲色 

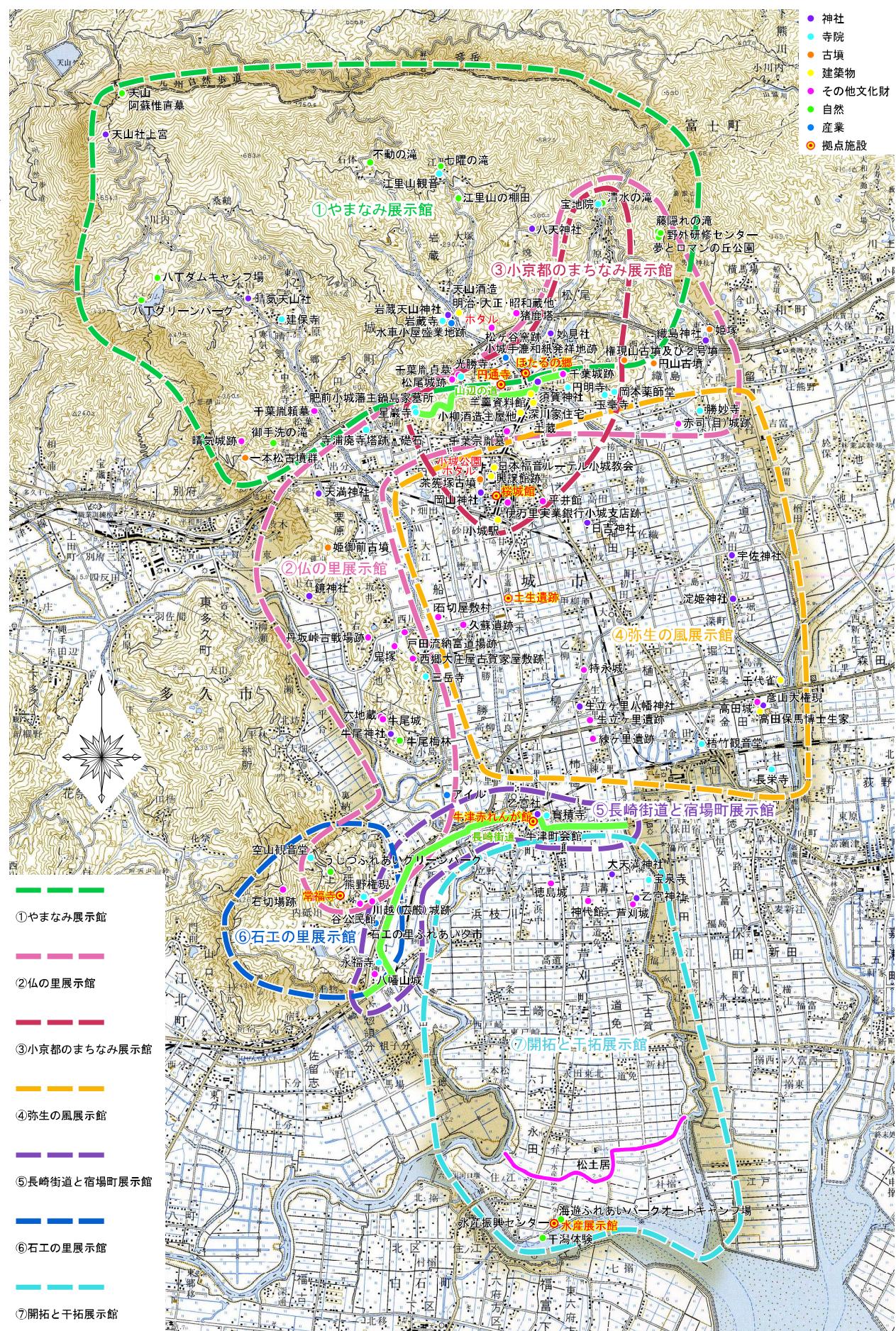
⑥石工の里展示館

石切場跡や平川与四右衛門を代表とする肥前石工の残した石造物を中心としたゾーン。肥前石工の活躍した時代を偲ばせる膨大な量の石造物が今も残る。
ゾーンのテーマカラーは紺青色 

⑦開拓と干拓展示館

干拓地を中心とした農業、漁業の歴史のゾーン。有明海を干拓して耕作地を増やしてきた歴史、有明海とのかかわりを知る。
ゾーンのテーマカラーは空色 

図4-1 小城市境ゾーニング図



2) 市内の各展示館

①やまなみ展示館

この地域は天山や彦岳などからなる山岳地域で、江里山の棚田、清水の滝といった異なる景観を持つやまなみが存在する。

この地域では人々が山岳を活かした生活を営み、文化を築いてきた。また豊かな自然によってホタルなどの生物もはぐくまれている。清水の滝周辺ではその澄んだ水を利用して訪れる人に鯉料理が振舞わってきた。

このゾーンではこの異なる景観を持つやまなみを感じ、山岳において人々が築き上げた歴史文化を学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは青竹色（あおたけいろ）とし、地区拠点候補はホタルの郷とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo.

・神社

- 松尾妙見社（47）
- 晴氣天山社（75）
- 天山社上宮（76）
- 岩藏天山神社（80）
- 北浦妙見社（83）
- 八天神社（93）



写真4－1 北浦妙見社

・寺院

- 光勝寺（5）
- 宝地院（17）
- 見明寺（71）
- 岩藏寺（79）
- 大日堂（81）
- 江里山観音（82）
- 持福寺（85）
- 本龍院（88）
- 建保寺（94）



写真4－2 岩藏寺

・古墳

- 一本松古墳群（19）
- 権現山古墳および2号墳（26）

・建築物

- 天山酒造明治・大正・昭和蔵他（9）

- ・その他の文化財
 - 千葉胤頼墓
 - 猪鹿塔
 - 千葉胤貞墓（5、47）
 - 松ヶ谷窯跡（18）
 - 晴気城跡（46）
 - 松尾城跡（47）
 - 阿蘇惟直碑（53）
 - 妙見（北浦）遺跡（84）
 - 寄居のさむらい屋敷跡（89）
 - 愛宕山の勝軍地蔵（100）



写真4－3 清水の滝

- ・無形文化財
 - 御田（天山神社春祭り）
 - 祇園祭
 - 浮立
 - （晴気天山社、岩藏天山神社）



写真4－4 夢とロマンの丘公園

- ・自然
 - 天山
 - 八丁ダムキャンプ場
 - 八丁グリーンパーク
 - 清水の滝
 - 藤隠れの滝
 - 不動の滝
 - 七曜の滝
 - 御手洗の滝
 - 野外研修センター
 - 夢とロマンの丘公園
 - 江里山の棚田
 - 九州自然歩道



写真4－5 江里山の棚田

- ・産業
 - 小城手漉和紙発祥地跡
 - 水車小屋盛業地跡（80）

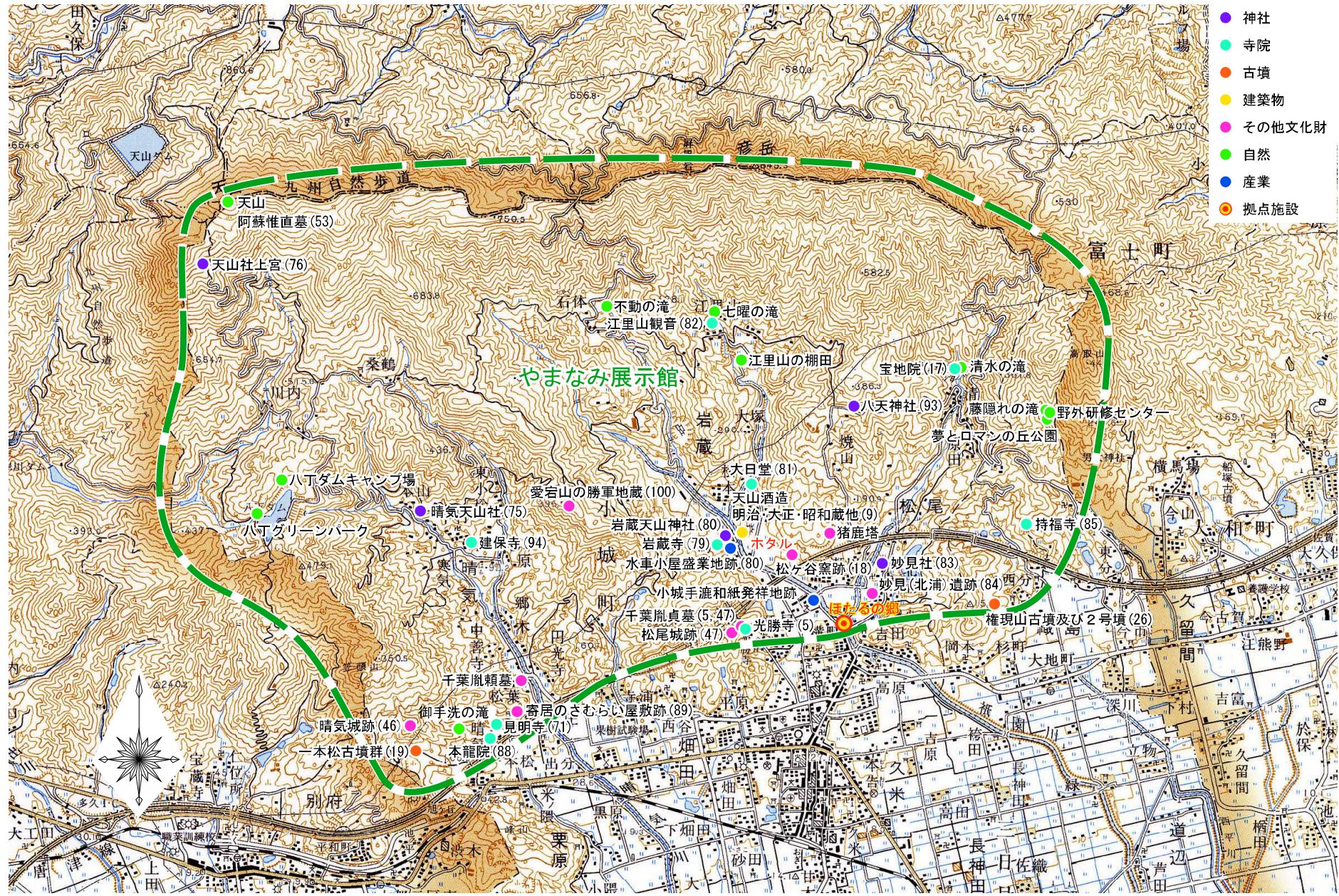


図4-2 ゾーニング①やまなみ展示館

②仏の里展示館

この地域には様々な時代の宗教施設が残されており、様々な時代、素材、形態の仏像が数多く残されている。

このゾーンでは人々と宗教とのかかわりを感じ、歴史を学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは紅梅色（こうばいいろ）とし、地区拠点候補は円通寺とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo.

・神社

- 熊野権現
- 須賀神社（3）
- 牛尾神社（33）
- 天満社（34）
- 鏡神社（72）
- 北浦妙見社（83）
- 織島神社（86）
- 英彦山権現（39）
- 山神社（39）

・寺院

- 星巖寺（2）
- 光勝寺（5）
- 寺浦廃寺塔跡並びに礎石（7）
- 円明寺（14）
- 宝地院（17）
- 勝妙寺（21）
- 玉毫寺（22）
- 岡本薬師堂（24）
- 三岳寺（32）
- 空山觀音堂（39）
- 常福寺（40）
- 山崎觀音堂（55）
- 持福寺（85）
- 清淨院（92）

・古墳

- 権現山古墳および2号墳（26）
- 姫塚（27）
- 円山古墳（28）
- 姫御前古墳（31）
- 丹坂峠古墳（62）



写真4－6 牛尾神社の肥前鳥居



写真4－7 玉毫寺山門

- ・建築物
 - 深川家住宅・土蔵（11）
 - 小柳酒造主屋他（12）
 - 羊羹資料館（13）

- ・その他の文化財
 - 谷公民館(石造千手觀音菩薩坐像)
 - 千葉城跡（4）
 - 千葉胤貞墓（5、47）
 - 千葉宗胤墓（6）
 - 山辺の道（16）
 - 長崎街道（38）
 - 松尾城跡（47）
 - 赤司（目）城跡（48）
 - 牛尾城跡（52）
 - 丹坂峠古戦場（54）
 - 老松山遺跡（59）
 - 川越（広巣）城跡（63）
 - とんさんみち（68）
 - 修驗道（69）
 - 妙見（北浦）遺跡（84）
 - 戸田流納富道場跡と鬼塚（87）
 - 西郷大庄屋古賀家屋敷跡（91）

・無形文化財

- 祇園祭
- 龍王浮立（織島神社）
- 二十三夜尊浮立
- 八幡神社神風通夜
- 八幡神社神幸行列
- 八幡神社秋の祭礼
- 牛尾神社神幸行列
- 浮立（愛宕神社）

- ・自然
 - 清水の滝
 - 藤隠れの滝
 - 夢とロマンの丘公園
 - 野外研修センター
 - 牛尾梅林
 - うしづふれあいグリーンパーク
 - 織島神社の楠（73）
 - 勝妙寺の銀木犀（73）

・産業

- 小城手漉和紙発祥地跡
- ほたるの郷
- アイル

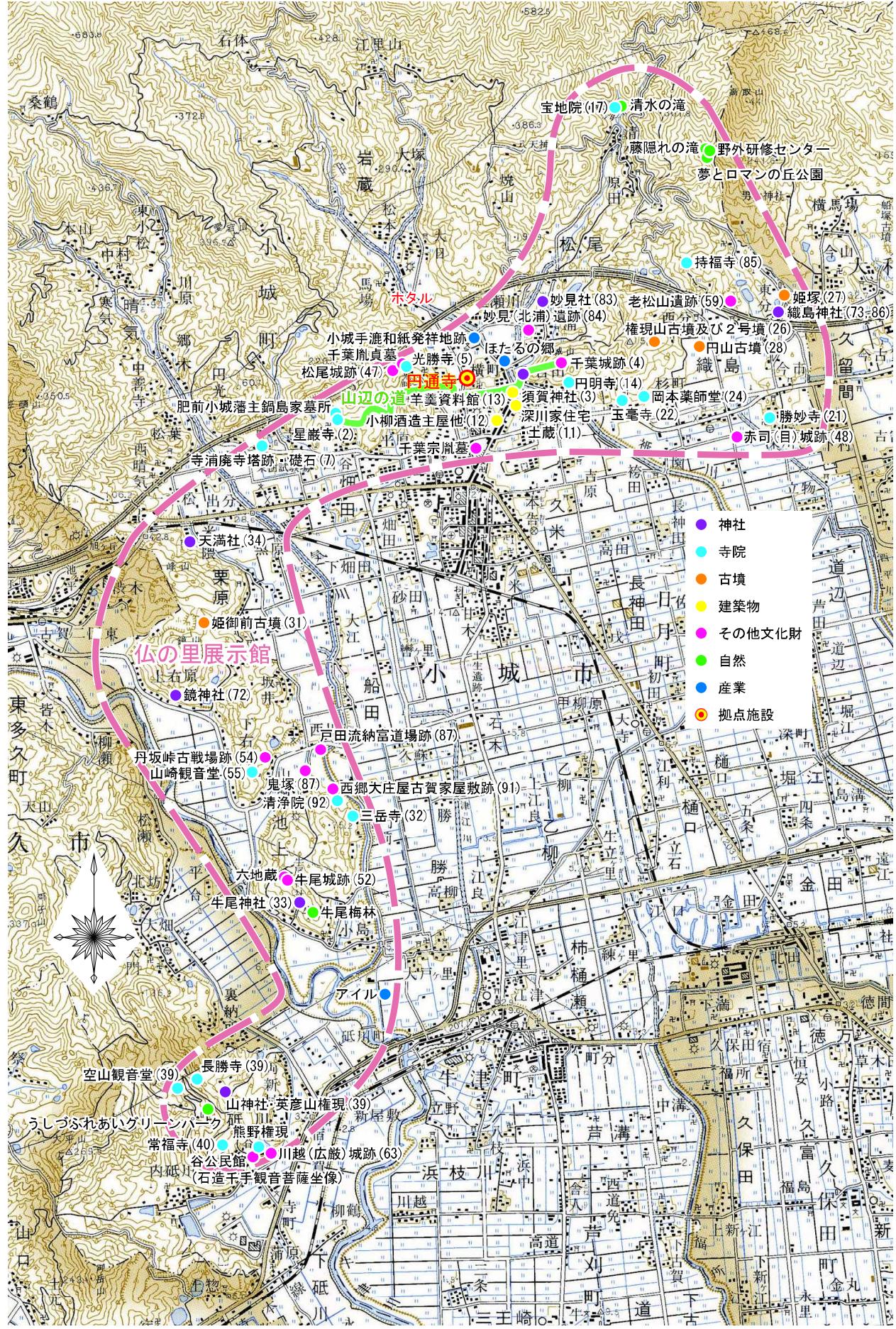


写真4－8 姫塚



写真4－9 牛尾の六地蔵

図4-3 ゾーニング②仏の里展示館



③小京都のまちなみ展示館

この地域は千葉氏や小城鍋島氏などの城下町として栄えてきた地域で、今なお小京都のまちなみを残している。

この地域には千葉氏、小城鍋島氏にゆかりのある寺社等が数多く残る。他にも国登録有形文化財の登録を受けた建物が存在し、まちなみを形成している。

このゾーンでは、中世の千葉氏から江戸期の小城鍋島氏へと支配者が移り変わることによってまちなみがどのように発展を遂げてきたを感じ、まちなみの移り変わりを学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは赤紅（あかべに）とし、地区拠点候補は桜城館とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo.

・神社

須賀神社（3）

岡山神社（15）

北浦妙見社（83）



写真4－10 岡山神社

・寺院

星巖寺（2）

肥前小城藩主鍋島家墓所（2）

光勝寺（5）

円通寺（6）

円明寺（14）

宝地院（17）

玉毫寺（22）

岡本薬師堂（24）



写真4－11 茶筅塚古墳

・古墳

茶筅塚古墳（8）

・建築物

日本福音ルーテル小城教会（10）

深川家住宅・土蔵（11）

小柳酒造主屋他（12）

羊羹資料館（13）

小城駅舎（45）

興譲館跡（56）

・その他の文化財

鯖岡小路の楨並木

千葉城跡（4）

千葉宗胤墓（6）

山辺の道（16）

松尾城跡（47）

平井館跡（49）

武家屋敷群（57）

大手町の町家群（58）

伊万里実業銀行小城支店跡（58）

妙見（北浦）遺跡（84）

千葉胤頼墓（90）



写真4－12 千葉胤頼墓（立中社）

・無形文化財

祇園祭

・自然

清水の滝

小城公園の大角楨など（56）



写真4－13 大手町の町家

・産業

小城手漉和紙発祥地

ほたるの郷



写真4－14 小城公園の大角楨

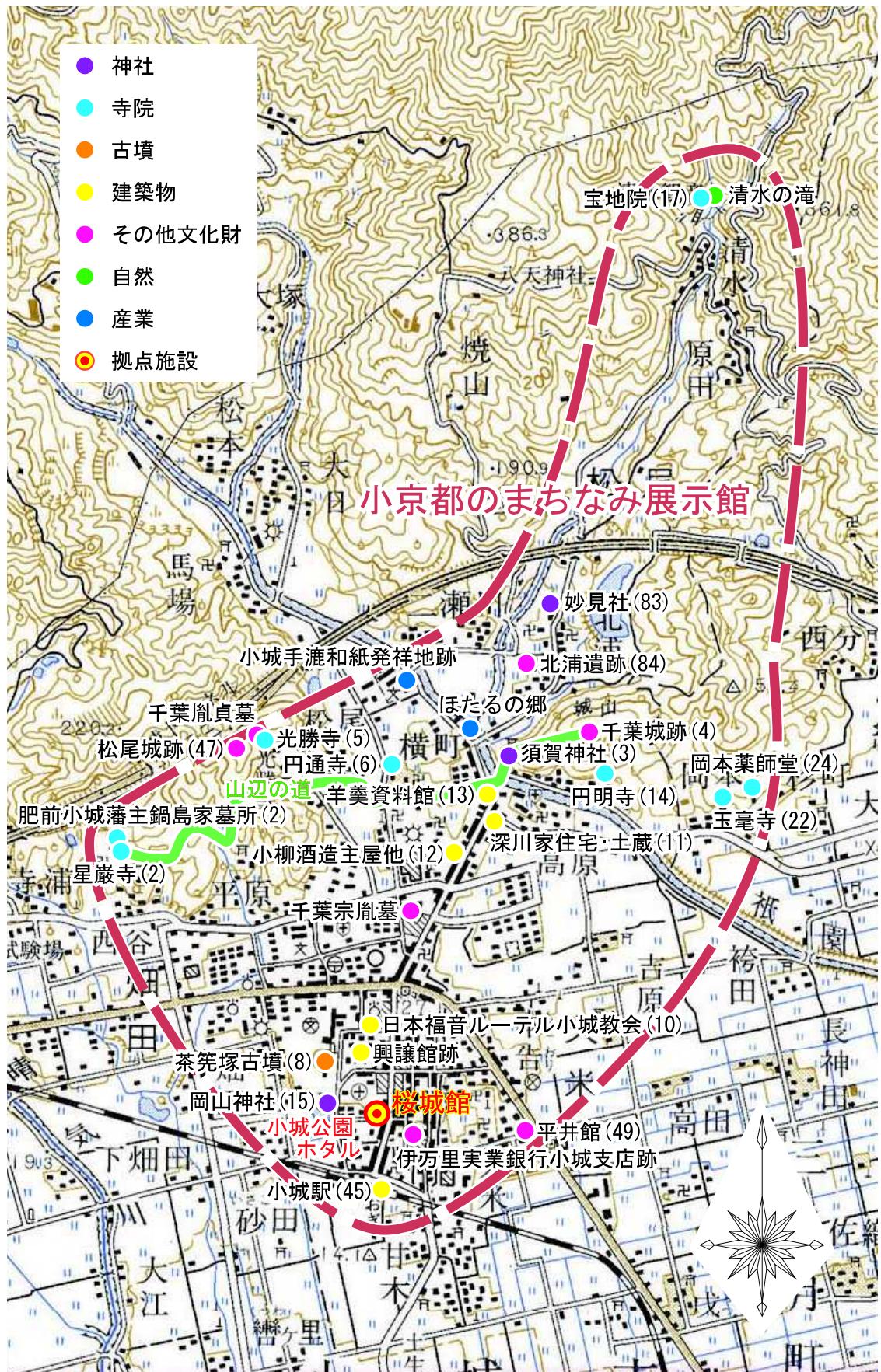


図4-4 ゾーニング③小京都のまちなみ展示館

④弥生の風展示館

この地域は弥生時代から農耕集落遺跡が形成された地域で、現在も秋になると稲穂によって一面が黄金色に染まる。

この地域では土生遺跡をはじめとした弥生時代の遺跡が数多く確認される。また「四条」や「五条」といった地名のように条里制に因む地名も残されており、現代において三日月町は米づくり日本一にも輝いた。

このゾーンでは弥生時代から現在に伝わる稻作の歴史を感じ、学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは山吹色（やまぶきいろ）とし、地区拠点候補は土生遺跡とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo.

・神社

淀姫神社

岡山神社（15）

生立ヶ里八幡神社（25）

彦山大権現（51）

島溝日吉神社（78）

堀江神社（95）

宇佐神社（96）

七星宮（97）

高田日吉神社（99）



写真4－15 生立ヶ里八幡の肥前鳥居

・寺院

勝妙寺（21）

長栄寺（23）

梧竹觀音堂（23）



・古墳

茶筅塚古墳（8）

・建築物

日本福音ルーテル小城教会（10）

写真4－16 梧竹觀音堂

高田保馬博士生家（29）

小城駅舎（45）

興譲館跡（56）

千代雀（73）

- ・その他の文化財
 - 生立ヶ里遺跡
 - 練ヶ里遺跡
 - 桜城館（1）
 - 久蘇遺跡（30）
 - 赤司（目）城跡（48）
 - 平井館跡（49）
 - 持永城跡（50）
 - 高田城跡（51）
 - 武家屋敷群（57）
 - 大手町の町家群（58）
 - 伊万里実業銀行小城支店跡（58）
 - 佐織遺跡（60）
 - 石木中高遺跡（61）
 - とんさんみち（68）
 - 石切屋敷村（77）



写真4－17 高田博士生家

- ・無形文化財
 - 女相撲甚句
 - 面浮立（甲柳原天満宮）
 - 太鼓浮立（練ヶ里地区）



写真4－18 千代雀の楠

- ・自然
 - 小城公園の大角楨など（56）
 - 勝妙寺の銀木犀（73）
 - 淀姫神社の楠（73）
 - 千代雀の楠（73）
 - 五条天満宮の楠（73）
 - 七星宮の楠（73）
 - 甲柳原天満宮の楠（73）



写真4－19 甲柳原天満宮の楠

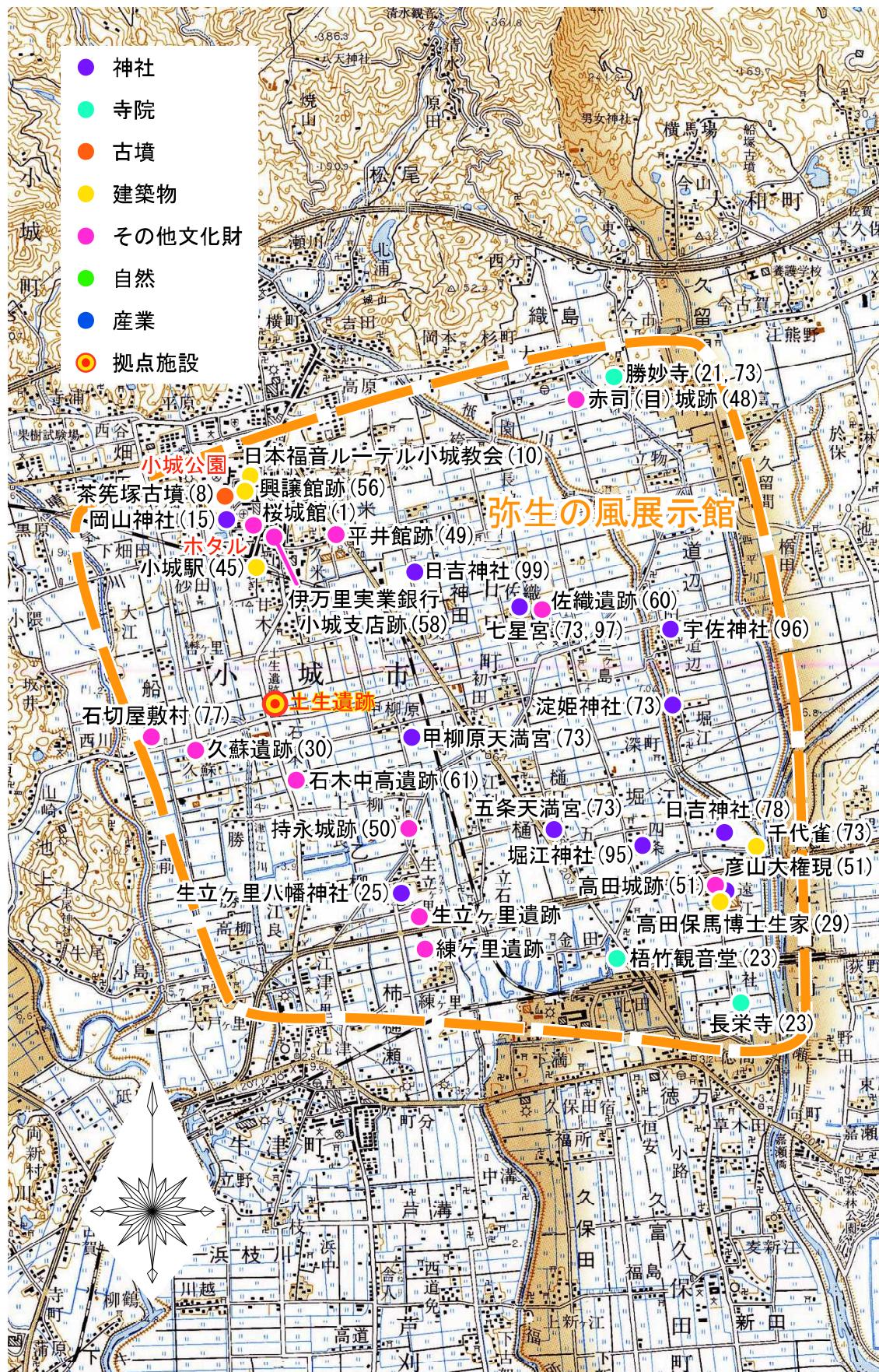


図 4-5 ゾーニング④弥生の風展示館

⑤長崎街道と宿場町展示館

この地域は古くから商業の盛んな町として栄えてきた地域で、「西の浪速」と称された時代もあった。

この地域の街角にはえびす像などの石造物が見られ、また、まちなみからも長崎街道沿いとその宿場町を中心として栄えたころの面影が偲ばれる。

このゾーンでは商人の町として、そして宿場町として、「牛津は津でもち駅でもち、町の栄えは店でもつ」とまでいわれた歴史を感じ、学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは菖蒲色（しょうぶいろ）とし、地区拠点候補は牛津赤れんが館とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo

・神社

- 乙宮社 (38)
- 西宮社 (38)

・産業

- 石工の里ふれあい夕市

・寺院

- 寶積寺 (37)
- 正満寺 (38)
- 永福寺 (42)



・建築物

- 牛津町会館 (36)

・その他の文化財

- 上使屋跡
- 継場跡
- 高札場跡
- 町家
- えびす像
- 船着場跡
- 長崎街道 (38)
- 川越城跡 (63)
- 八幡山城跡 (64)

写真4－20 宝積寺の六地蔵

・無形文化財

- 乙宮社神幸行列

・自然

- 牛津川



写真4－21 牛津町会館

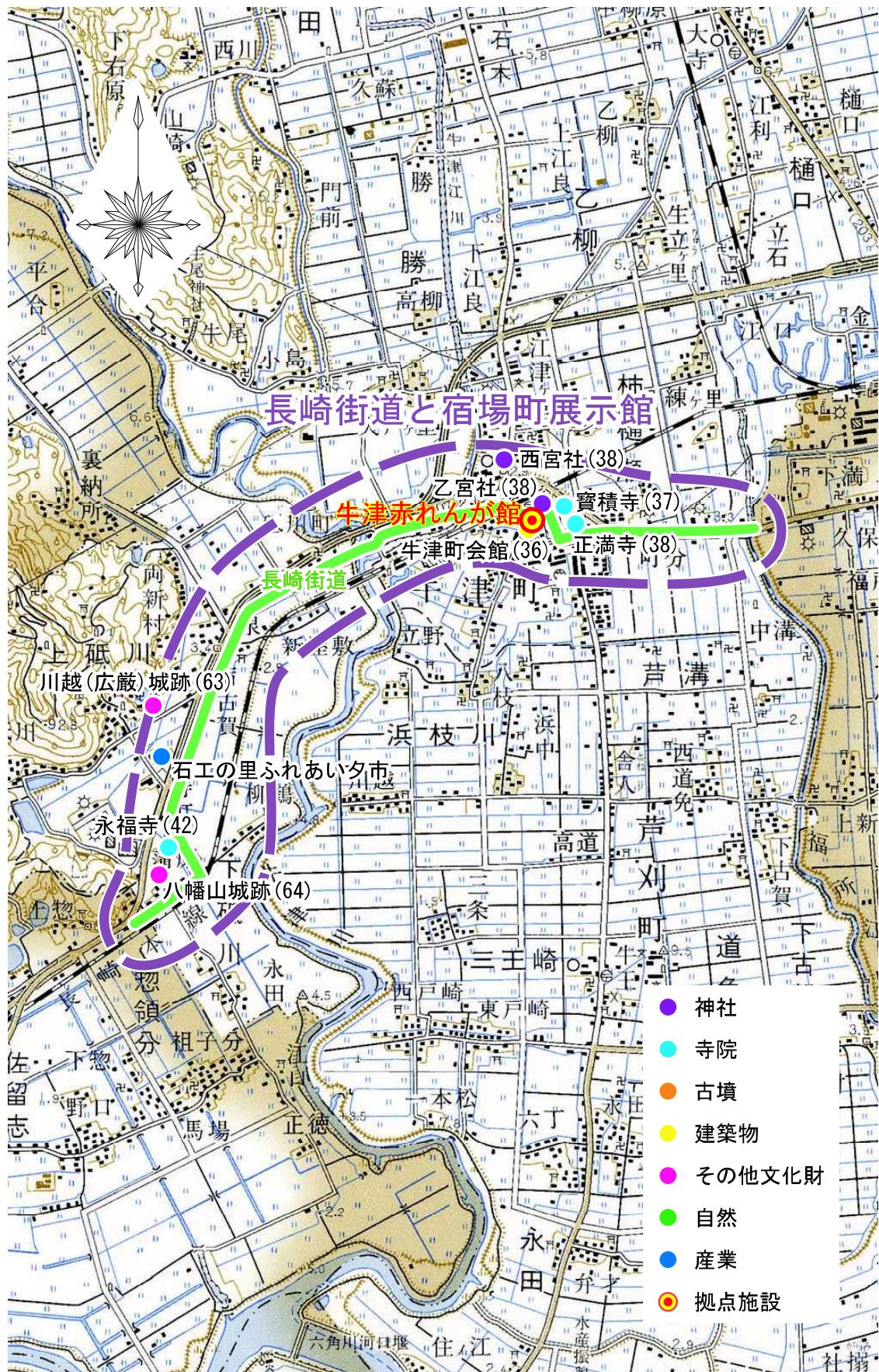


図4-6 ゾーニング⑤長崎街道と宿場町展示館

⑥石工の里展示館

この地域は石工が活躍した地域で、今なお膨大な量の石造物が残る。

この地域には肥前石工の棟梁、平川与四右衛門をはじめとする肥前石工が活躍し、その作品は北部九州一帯で確認されている。また、石工たちが利用した石切場跡も確認されている。

このゾーンでは緻密で繊細な石造物に触れ、石造りの文化を学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは紺青色（こんじょういろ）とし、地区拠点候補は常福寺とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo

・神社

- 内砥川八幡神社 (67)
- 英彦山神社 (39)
- 山神社 (39)

・産業

- 石工の里ふれあい夕市

・寺院

- 熊野権現
- 空山観音堂 (39)
- 長勝寺 (39)
- 永福寺 (42)

・その他の文化財

- 谷公民館(石造千手観音菩薩坐像)
- 丸石塚遺跡
- 長崎街道 (38)
- 石切場跡 (41)
- 川越城跡 (63)
- 八幡山城跡 (64)



写真4-22 内砥川八幡神社

・無形文化財

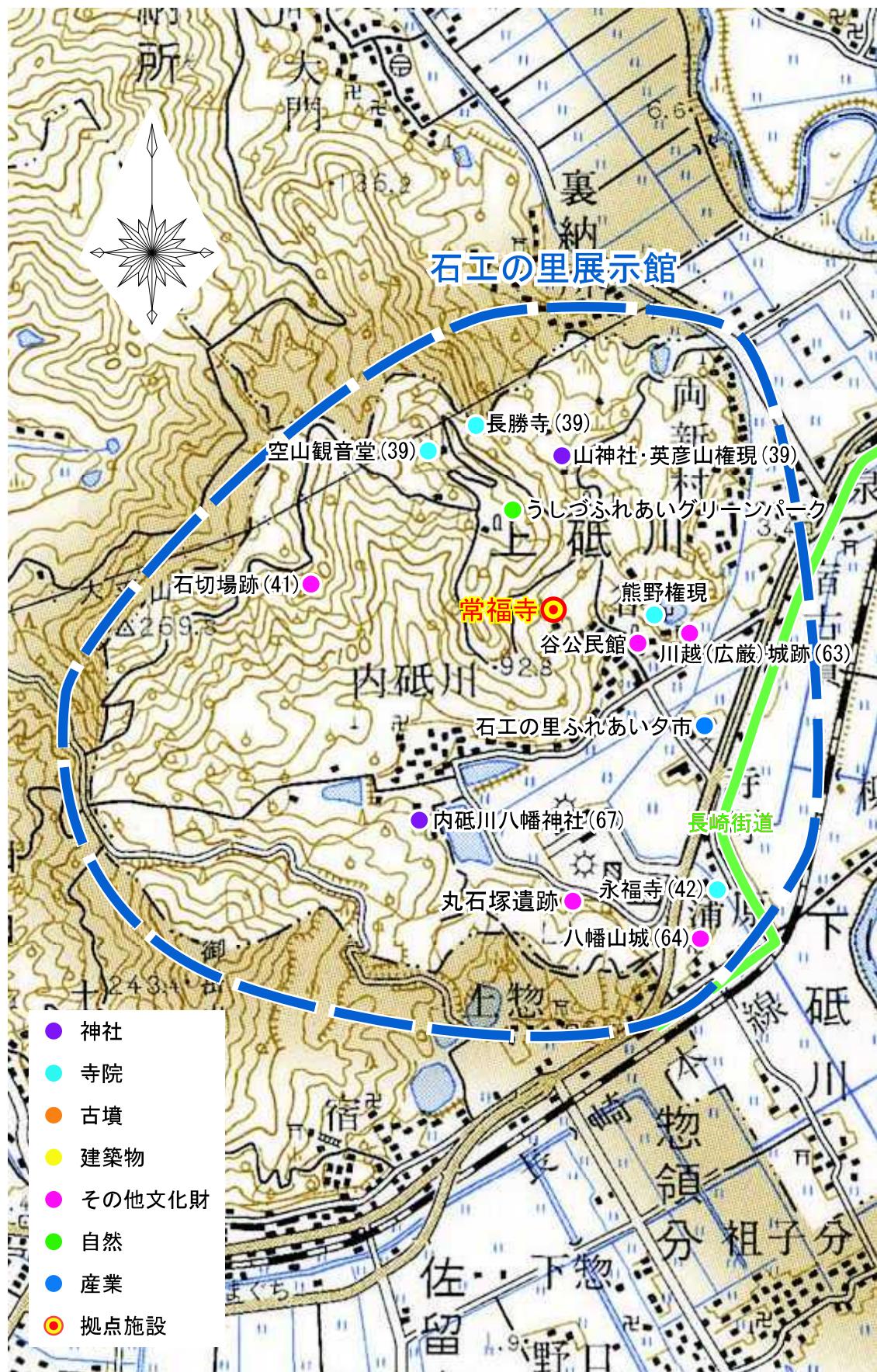
- 二十三夜尊浮立
- 八幡神社神風通夜
- 八幡神社神幸行列
- 八幡神社秋の祭礼
- 浮立（愛宕神社）



写真4-23 常福寺の石造物

・自然

- うしづふれあいグリーンパーク



⑦開拓と干拓展示館

この地域は有明海に接する地域で、漁業を営む一方で広大な干潟を干拓し耕作地を増やしてきた。

この地域のほとんどが以前は有明海であったところで、人々は農作物の生産性の向上を求め、堤防を築き干拓によって農地を増やしてきた。また有明海の特長的な海産物も豊富である。また世界で唯一のムツゴロウ・シオマネキ保護区も存在する。

このゾーンでは干拓地を中心とした農業、漁業の歴史、有明海とのかかわりを感じ、学ぶ。

ゾーンのテーマカラーは空色（そらいろ）とし、地区拠点候補は水産展示館とする。

このゾーンに属する文化財

※（ ）内数字は一覧表のNo

- ・神社
 - 大天満神社（43）
 - 中溝乙宮社（44）
 - 龍王社（74）
- ・寺院
 - 宝泉寺（65）
 - 永林寺（65）
 - 福田寺（65）
- ・その他の文化財
 - 芦刈城跡（65）
 - 徳島城跡（65）
 - 神代館跡（66）
 - 松土居（74）
- ・無形文化財
 - おんだみやー（御田祭）
 - おくんち（乙宮社）
 - 島みやー（島詣り）
 - 新地節（地踊り）
- ・自然
 - 海遊ふれあいパーク
 - オートキャンプ場
 - 水産振興センター



写真4-24 大天満神社



写真4-25 干潟体験場

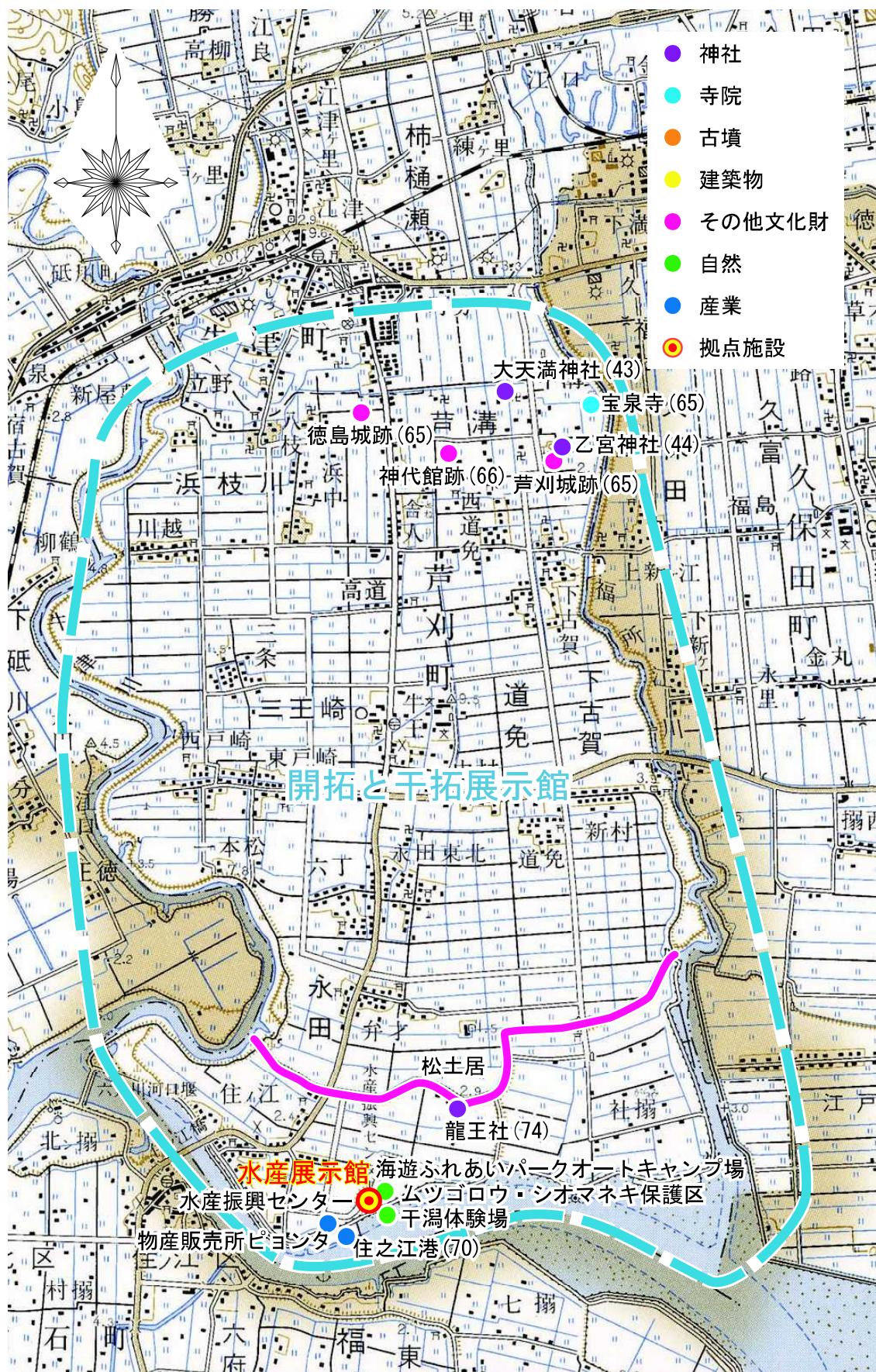
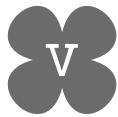


図4-8 ゾーニング⑦開拓と干拓展示館



1. 文化財の保存と今後の管理

本構想では文化財を中心としたまちづくりをめざすが、文化財の重要性が認識されていないことや管理が十分されていないことによって、その価値が損ねられかねない。そうならないためには文化財の価値やその現状を再調査し、十分に把握することが必要である。その上で適切な保存管理をおこなうことで、その文化財の価値を守ることができる。

(1) 文化財の現状の把握

文化財の価値を損ねず、フィールドミュージアムとして活用しやすいようにするためにには、それぞれの文化財の内容、性格にふさわしい管理をおこなうことが重要である。そのためには文化財の現状を十分に把握する事が必要である。小城市に存在する文化財について再調査をおこない、その状況を、保存整備の優先度を決定したり今後の管理方法を決定する判断材料とする。

再調査の内容としては現況がどのようにあるのか、どのくらいの来訪者が見込めるか、インフラ整備として何をおこなえばいいかなど、文化財の価値だけではなく小城どこでんミュージアムとしての活用を視野に入れた調査が必要である。

(2) 文化財の保存と管理

文化財の現状を把握した上でそれにあった保存や管理をおこなっていくが、地区内の文化財の除草作業や清掃、文化財保護と見学者の安全のための定期的な見回りなどの人手の必要な管理には、地域の方々に参加して貰う。そのためには地域の方々へ向けた文化財保護の取り組みへの理解のための教育と、参加の呼びかけをおこなうことが必要である。文化財の保存や管理に直接関わることで地域の文化財を身近に感じてもらい、愛着を持つ事が期待できる。文化財の管理を委託するというのは有効な手段である。地域の自治会などへの文化財の清掃などの管理を委託することも検討する。また文化財管理における功績のある団体への表彰をおこなうことも有効である。

保存や管理は有形の文化財だけに必要なのではなく、無形のものにも必要である。伝統行事の保存と継承、地域の子どもたちへの文化の継承を目的とした地域の祭りの運営や保護をおこなっていくことも重要である。